

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102483		
法人名	岐協福祉会 大洞岐協苑		
事業所名	グループホーム 大洞岐協苑		
所在地	岐阜県岐阜市大洞3丁目3番地1		
自己評価作成日	平成27年 9月 9日	評価結果市町村受理日	平成27年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosvCd=2170102483-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成27年 9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業者は、豊かな自然に囲まれ季節ごとの美しい風景を感じることが出来ます。隣に流れる山田川には、初夏になると多くのホタルが育成し、美しい姿を見ることが出来ます。特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスなどの関連施設が隣接しており、納涼祭、運動会、誕生会などの行事に参加して交流を図っています。また読み聞かせ、笑いヨガ、絵手紙などのボランティアによるサークル、地域の行事・サロンへの参加など、地域の方との交流も深めています。利用者の意思・個性を尊重し利用者一人一人を理解し、ケアプランを中心にした自主性を尊重したケアを実践しています。家庭的な雰囲気一番に心がけ、笑顔の絶えない明るく楽しいホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の人事異動によって管理者、主任、介護支援専門員の交代があった。ホーム運営上の幹部の総入れ替えのため、支援の質の低下が心配されたが、利用者・家族の不安・動揺は全く見られず、引継ぎが適切かつ円滑に行われたことを裏付けている。
管理者が複合施設の副施設長を兼務していることから、ホーム運営は新任の主任に委ねられており、職員との協力体制を築いて様々な改善に取り組んでいる。利用者の充実した暮らしを継続して支援するため、職員の使用する記録様式を変更したり、新たに設けたりした。職員の意見を聞き、朝の掃除の方法を変更し、掃除機からモップに替えることで騒音による利用者の不安定な状態を除去することにも成功している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・グループホームの理念を玄関と室内に掲示し、日常的に確認できるようにしている。月1回のケア会議で理念を基に地域の方の力を借りながら心地よい暮らしができるように話し合い、日々のケアにつなげている。	人事異動があり、管理者やリーダーの交代があった。管理者が大型複合施設の副施設長を兼ねることから、ホーム運営は新リーダーに託されており、「ゆったり、得意なことを、生き活きと」を柱として支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り・サロンなどに参加させて頂き交流を深めている。	山間の谷あい立地しており、ホーム近辺には民家はない。これまでの慣例によって、いくつかの自治会と連携を図っており、自治会主催の敬老会やサロンには利用者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での認知症会議に参加し、グループホームとしての役割などの説明をさせていただいた。また近くの大学より実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自治会代表・民生委員など委員の方や家族から意見を頂き、ケアに活かせるようにしている。	毎奇数月に運営推進会議を開催しており、年間6回の開催である。「会議記録」には、参加メンバーの意見が詳細に時系列で記録されており、会議の様子が手に取るように分かる。	ホームからの現状報告だけにとどまらず、目標達成計画の評価(モニタリング)を実施し、運営推進会議による計画の進捗管理が図られることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に運営推進会議に参加して頂き、会議時に事業所の実情を報告している。また毎月市の担当課に待機者の報告を行っている。	管理者(副施設長)とリーダーとが、それぞれの役割を分担して市の担当課と折衝している。生活保護受給者の利用があることから、保護係とも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の他部署と一緒に三か月に一度委員会を開催している。ホーム入り口にはセンサーを設置し、施錠は行っていない。利用者に身体的危険が及ぶ時のみ、家族の同意を得て行う。	職員会議、ホーム会議を通じて「親しみのある声掛け」をテーマに学んでおり、職員は言葉による拘束に関しても意識が高い。利用者の自立度が高いこともあり、職員が利用者の行動を制止・制限するような声掛けはなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修等で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修等で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等は必ず口頭で説明し、質問等を受け同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また家族の面会時には必ずお話しし、要望や意見を伺うように心がけている。	家族とホームとの友好的な関係が構築されており、アンケートでも満足度の高い評価を得ている。日々のホーム訪問に加え、病院への通院付添いや運営推進会議への出席等、家族の協力度は高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ケア会議があり、積極的に意見を出し合いよりよいケアに生かせるようにしている。	日々の支援の中で出た疑問や要改善事項について、次回のホーム会議の議題として取り上げている。それらの議題を会議で検討し、職員の総意で決定事項としている。	朝の床掃除の方法を変更し、掃除機からモップに替えたことで利用者の落ち着きが得られた。職員意見が利用者の利益につながっており、さらに改善事例が増えることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長による個人面談、数か月に一度理事長面談もあり、率直な意見を直接伝える環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回苑内研修があり、知識・技術の習得に努めている。また外部での研修にも順次受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会、第一支部会や外部研修への参加がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にケアマネと家族・利用者本人から話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同様にケアマネと話をする機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム以外のケアマネージャーとも連携し相談の内容に応じた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理作り、洗濯たたみなどを通して共同作業の充実を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告書の送付、また家族の面会時には必ず声掛けし、ホームでの生活の様子や現状を報告している。受診は家族に依頼し健康状態の確認を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた地域の行事に出席したり、苑内散歩時にデイサービス利用者など顔なじみの方と挨拶や会話を楽しんでいる。	大型複合施設の特性を活かしている。デイサービスの利用経験がある利用者は、散歩がてらに顔馴染みに会いに行く。ホームの利用者が連れ立って、特養施設に移行された元利用者を訪ねて行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上合う・合わない利用者を把握し、職員間で情報共有しテーブルの席位置などに配慮している。皆でコミュニケーションがとれるように職員が間に入りフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設された特養に移られた利用者にも面会に行ったりして今までの関係性を大切に保つようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者への声掛けを積極的に行い、利用者の思いを引き出す傾聴に努めている。	利用者の思いを汲み取って支援につなげようとしており、様式の変更が検討されている。	意向をつかんだら直ぐに支援につながるもの、介護計画に取り上げるもの等の「交通整理」のルール化を図り、一つでも多くの利用者の思いが実現することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との会話の中から情報を得るように心がけている。これからセンター方式を導入していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や気づき、特変などを個人ファイルや日誌に記入し申し送りすることで、職員全員で周知できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族から思いや希望を聞き、毎月のケア会議でケアマネージャーと職員で話し合いを行い介護計画を立てている。	「介護計画と現場支援とを連動させる」ことを目標達成計画に取り上げ、様式を変更して支援の充実を図っている。6ヶ月毎や、状態変化時の計画見直しはあるが、意向の変化に着目した見直し例はなかった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	以前使用していたADLノートを中止し、新たに個人ファイルを作り使用している。これによりさらに詳しく日々の健康状態や心身の変化等を記入できるようになった。個人ファイルを通して職員全員が周知できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診は協力をお願いし家族対応を基本としているが、急変時、家族の都合上やむを得ない場合は職員が病院に付き添うなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月行われている地域のふれあいサロンへの参加、ボランティアによるお菓子作り、絵手紙。笑いヨガなどがある。また地域のスーパーと一緒に買い物に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医をを継続して受診している。身体的な変化があればその都度報告している。	地域出身の利用者が多く、これまでのかかりつけ医を継続して利用している。家族と連携を取り、ホームからの情報を伝えて家族付添いの受診の円滑化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は特養と兼務であるが、日頃から利用者の状況を報告し、特変時には対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は家族に状況の確認をし、お見舞いにも行っている。退院時には担当看護師、家族、ケースワーカー、ケアマネでカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では終末期ケアに関してはまだ未定であるが、特養では終末期ケア実施のための委員会が発足している。特養が隣接しているため、重度化した場合や終末期ケアに関しては、特養の利用や他施設を探す等、家族に説明し同意を得ている。	利用者・家族の中には、ホームで最期まで支援してもらうことを望む声があるが、重度化や終末期の対応は併設特養や他の医療機関への移行を基本としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署にて救命救急やAEDの使用方法の講習を受けている。また、ホーム内に酸素ボンベを設置あい管理を行っている。吸引器の導入も検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の立ち入り検査と、消防訓練がある。	複合施設全体の防災訓練を年間2回実施し、消防署の立ち合いもある。福祉避難所としての登録もあり、複合施設全体で100名、3日分の食料備蓄を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の様子を見守りながら、自主性を尊重した支援を心がけている。	中堅職員が多く、対応のきめ細かさもあって利用者・家族からの信頼が厚い。トイレや入浴の介助について、異性による介助を好まない利用者には、本人の意思を尊重して同性で介助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつやお茶の時間には、飲み物等の希望を聞いている。余暇時間には思い思いの行動が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの時間は決まっているが、延食をするなど一人ひとりのペースに合わせている。起床・就寝時間には声掛けはするが、出来るだけ個人に合わせた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度訪問美容師によるヘアカットを行っている。また毎朝の整容時には髪を整えている。朝晩には蒸しタオルで顔を拭いた後に化粧水を塗ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや希望を聞き取り入れるようにしている。昼食・夕食作りは毎日利用者で行い、昼食は同じテーブルで職員も食事をしている。	利用者の自立度が高いことから、ほとんどの利用者が介助を受けずに喫食している。利用者の積極的な調理参加があり、料理の指導経験を持つ利用者は、「味付けの見張り番」的な役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事摂取量を記録している。体調に応じて水分摂取量の記録も行っている。毎月の体重測定、特養の管理栄養士にBMI表を作成してもらい助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室で行う方もいるが、毎食全員に声掛けし口腔ケアを行っている。就寝前には義歯を預かり、洗浄剤による消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中のトイレ誘導、夜間のポータブルトイレ設置、パットの交換などを行っている。パットも個人に合わせて容量・形態を変えている。	9名中7名がほぼ排泄自立の状態であり、この状態を維持するために、利用者個々に合わせた支援を行っている。ポータブルトイレを活用し、安易にパッドやおむつの使用をしない取り組みがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ビデオ体操や散歩を行い、食堂やリハビリ室での運動を心がけている。また便秘予防にヨーグルトなど乳製品の提供(おやつ)もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には必ずバイタルチェックを行い、体調に合わせて2～3日おきに入浴して頂いている。バイタルが正常値でも本人が入りたくない時は無理強いしないで休浴としている。	週に2～3回の入浴機会があり、行事等の特別な事情がない限り、午後からの入浴である。大きなタイル風呂であるが、タイルで滑って転倒することのないよう、安全面から入浴剤の使用は控えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の余暇活動やビデオ体操、散歩などを行い夜間の安眠につながるようにしている。眠れない利用者には無理な声かけはしないで、いっしょにお茶を飲むなどし孤ひとり合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように、服薬管理ノートを作成し、配薬から与薬まで管理を行っている。体調の変化や薬の相談などは受診時にかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りの際、その方の得意・不得意を把握し、皮むき・副菜分けなどできることをお願いして行ってもらっている。また余暇活動やサークルへの参加も個人個人に合わせて配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月ミニドライブを企画し、外出支援を行っている。長期の利用者が増えADLの低下など全員一緒での外出が難しくなっているが、遠出と近場で分けたり、なるべくたくさんの利用者が外出できるようにしている。毎日の散歩では気候や天気に合わせて、苑外へも出かけたりしている。	ホーム周辺は自然環境に恵まれており、天候が許せば四季を求めての散歩には絶好の地の利がある。散歩の途中で、敷地内の果樹から果物を採ってくることもある。この日の朝の収穫物は、イチジクであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方からお小遣いとして現金を預かり管理している。精神的な面から、ご自分で財布を所持したい方には、家族の理解を得て少額の金銭を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の方にはその都度付き添い介助している。また絵手紙サークルで描いた絵ハガキを家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの共有スペースには大きな窓があり、裏山の四季の移り変わりを楽しむことができる。食堂は椅子・テーブル・ソファがゆったりと配置され、思い思いの場所で過ごしていただけるようにしている。家庭的で明るい雰囲気になるように、サークルでの作品や季節の置物などを飾っている。	リビング、通路が広く、10畳ほどの畳のスペースも多目的に使うことが可能である。広い空間には利用者の居場所が豊富に用意されており、ぬり絵に没頭する利用者、読書、新聞を読む利用者等々、思い思いの暮らしが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間を中心に居室が配置されている為、一人になりたい時はすぐに居室へ行く事ができる。1ユニットのため、どの居室にいても食堂や居間の様子が伝わるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や家族の仏壇を置かれている。また思い出の写真や家族の写真飾りしている。	各居室に洗面台と収納庫が設置されており、整理整頓が行き届いている。フラワーアレンジメントの教室で作った小作品が飾ってあったり、ぬり絵がたくさん貼られている居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置。杖・歩行器・押し車・歩行見守り等、個々の身体状況に合わせている。体調に合わせて、必要時には車椅子対応を行っている。		